

上越市学校教育研究会「外国語部会」活動報告

1 今年度の主題設定の意図と研究内容

小・中学校の学習指導要領の改訂及び実施に伴い、外国語教育においても小中連携の下、9年間のスパンの中で、その指導の在り方を見直し、授業改善につなげていくことが求められている。これまでに行われてきた小・中学校間の情報交換にとどまらず、指導体制や学習内容面などにかかわる具体的な方策を考え、早急に実践していく必要がある。

そこで、外国語部会では、今年度から小学校と中学校の教員が一堂に会し、「小中連携」を意識した指導の在り方を研究し、児童生徒の英語力育成について共に研修を深めていくこととした。

2 研究の具体的な実践経過

- (1) 第1回・第2回小委員会 今年度の組織及び研究内容や専門部の運営についての協議
- (2) 専門部会（一斉研修） 小学校授業公開、全体協議会、ワークショップ

3 研究の概要

- (1) 公開授業（大手町小学校 茂木淳子教諭 ALT Joseph Bevins）

- ① 自己紹介（児童が会場の参観者と積極的に会話し、サインを獲得。）
- ② フォニックス（チャンツでアルファベットの音の練習。音の足し算で既習の単語を発見。）
- ③ 絵本を楽しむ（「THE GIVING TREE」のスライド、JTEの語り、ALTのパフォーマンスで内容理解。感じたままにオリジナルの日本語題名を考案。感想と題名発表。）
- ④ Can-Do 評価（自己評価カードに記入。）

- (2) 協議会

公開授業で紹介されたフォニックス（音声指導）については、参会者から賛否両論を含め、多くの関心が寄せられた。指導の意義や必要性が認められる一方で、小学校教師からは自らの指導力に対する不安も多く聞かれ、研修や教材等については今後さらなる検討が必要である。

また、ALTとJTEの英会話での物語を聞いた児童がその大筋を理解していたことから、「話す」と併せて、今後は「聞く」活動を充実させていくことの重要性も確認された。

協議会の指導者である上教大の北条礼子教授からは、文字指導やホール・ランゲージアプローチと、それらを取り入れた小学校での活動の利点と可能性について説明があり、小学校と中学校をつなげる指導の具体的な方策について多くの示唆をいただいた。

4 成果と課題

公開授業では、小学校でできる文字指導、音声指導、聞く活動のよいモデルが示され、北條先生からはフォニックスの有効性、可能性も示していただいた。ワークショップでは、小中の情報を共有したり互いの疑問点を解決したりすることができた。今年度の研修会を通して、小中連携についての意識が高まり、具体的な方策につながる発見やアイデアがあったのではないかと思う。これまでの小中連携では、情意面（英語に慣れている、物おじせずコミュニケーションしようとするなど）にかかわる内容は、ある程度は情報交換会で共通理解されてきたが、技能面（聞く力がある、単語を知っているなど）については、はっきりした数字では表すことができなかった。しかし、今回提案されたように、上越市の全小学校がフォニックスを導入したら、そして、中学校がそれを引き継ぎ、音声指導を継続し発展させていくような授業ができたならば、それは学習内容に一步踏み込んだカリキュラム上の連携を生み、確実に児童生徒の学力向上を支える土台の一部となるだろう。